

令和5年度 中野区立桃園第二小学校 学校経営計画 (報告書)

<p>学校教育目標</p>	<p>中野区教育委員会の教育理念「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」をふまえ、 人権尊重の精神を正しく理解し、豊かな心をもった人間の育成を目指し、知・徳・体の調和がとれた人間性豊かな子ども、「考える子」「思いやりのある子」「元気な子」の育成を図る。</p>		
<p>目指す子ども (幼児・児童・生徒)像</p>	<p>考える子..... 基礎的、基本的な内容を理解し、興味・関心を高めて学び、思考力・判断力・表現力を身に付けて、主体的・対話的に学ぶ子</p> <p>思いやりのある子... 優しい心で他者とかわり、互いのよさを認め、励まし合い、喜び合い、高め合うことができる豊かな感性をもつ子</p> <p>元気な子..... 運動に親しみ、自分の健康に目を向け、すすんで心身を鍛え、健康の保持増進と体力向上に努める子</p>	<p>目指す学校 (教師像を含む)</p>	<p>○「子どものために、子どもとともに」を合言葉に、子どもを第一に考え、全教職員が一丸となって働く学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが、安心して生活し、自分の力を発揮する喜びを得られる学校</li> <li>子どもが、できる喜び、分かる喜び、共に学ぶ楽しさを実感できる学校</li> <li>教職員が互いに切磋琢磨して、指導力や組織力を向上させる学校</li> <li>子どもの教育に当たって、保護者や地域等と連携し、地域と共に歩む学校</li> </ul>
<p>教育目標を達成するための基本方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからの新しい時代を生きる子どもたち一人一人が、個性と能力を発揮し、人間性豊かにより高い自分の夢や希望を実現できるよう、学校は、常に最善を目指して教育環境を整える。そのためには、一人一人の子どもの実態や心の変容を的確に把握し、明確な指導目標のもと、組織的・計画的な教育活動を展開する。</li> <li>教職員は、子どものために、変化に臆せず、自らすすんで工夫・改善・創造に取り組むとともに、指導技術や職務にかかわる知識・技能を、互いに交流し合い、磨き合う。過去の功績や成功に執着せず、新しい時代に対応した学校教育を創造する教職員集団を目指して、常に建設的に議論し、異論に学び合う。教育活動の充実のために、教職員一人一人の心身の健康と、教育に携わるものとしての充実感のもてる職場とする。</li> <li>計画的で一貫性、透明性のある教育を実践し、子どもたちが自信をもって力を発揮することができるようにするとともに、事故を防止する。</li> <li>学校経営方針及び、教育計画の十分な説明と学校公開、保護者会、教科や道徳の授業地区公開講座、学校評議委員会、学校関係者評価委員会等を計画的に行い、「保護者、地域に開いた信頼される学校」を目指す。</li> </ul>		

今年度の重点

A 重点目標	B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする)
<p>1 【知(確かな学力)】</p> <p>これからの時代を生きる子どもたちに必要な確かな学力の育成</p>	<p>○ 誰一人取り残さない持続可能な社会を実現するというSDGsの視点で、自ら課題を見つけ、自分の考えをもち、考えを表現し合って対話し、解決する力を育む。</p> <p>○ デジタル技術を活用して、生活や人生を豊かにする力、知的好奇心をもって探求する力、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて努力する力を育む。</p>	<p>○ 全学級全教科で、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実施する。</p> <p>○ 全学級で、探求学習を実施し、調べて探求する学習の進め方を身につける。</p> <p>○ デジタルドリルを活用した反復学習の仕方を確立する。</p>
<p>2 【徳(豊かな人間性)】</p> <p>自他の良さを認め、社会で自立できる人間性の育成</p>	<p>○ 将来において、困難や苦勞を感じながらも、健康で前向きに学び、改善を図ろうとする人間へ成長しようとする心、多様な考え方を理解し、認める心を育む。</p> <p>○ 将来において、自らすすんでコミュニケーションを図り、多くの人から愛される人間へと成長できるよう、所作や心を育む。</p>	<p>○ 新しいことを学ぶことが楽しい、多くの人から学ぶことが楽しいと感じる心を育む。</p> <p>○ 人とのコミュニケーションにおいて、挨拶と返事を大切に、自分からしようとする心を育む。</p>
<p>3 【体(健康・体力)】</p> <p>これからの時代を生きる子どもたちの生きる力を支える体力、行動力の育成</p>	<p>○ 運動すること、体力を高めること、みんなで一緒に運動することを楽しむ態度を育む。</p> <p>○ 心身の健康を保持し、課題や困難に立ち向かうことができる心と身体を育む。</p>	<p>○ 子どもたちが夢中で取り組む授業、体育的行事、体育的活動を行って、子どもたちの達成感を積み重ねる。</p> <p>○ 特別活動を、子どもたちが主体的に取り組み、やり遂げた経験を積み重ねて、達成感を抱けるようにする。</p>
<p>4 【安心・安全な学校づくり】</p> <p>子どもたちが自己実現できる環境の整備</p>	<p>○ 子どもたちが、安全で安心できることを確信した上で、自己の能力を最大限に発揮して、自己実現できる教育環境をつくる。</p> <p>○ 子どもの権利、個性尊重、特別支援教育を徹底し、自他を認められる心を育む。</p>	<p>○ いじめ、不登校・登校しぶりによる重大事態を引き起こさない。</p> <p>○ 子どもたちに、問題行動からの二次障害を起こさない。</p> <p>○ 児童理解と特別支援教育の視点を全教職員が踏まえた指導・支援を行う学校とする。</p>
<p>5 【学校における働き方改革】</p> <p>教育に携わる者としてのライフワークバランスの充実</p>	<p>○ 教職員が教育に携わる者としての自己実現をかなえ、生活と仕事を両立する職場をつくる。</p>	<p>○ 教職員が教育に携わるやりがい・生きがいをもち、互いのライフを尊重し助け合う教職員集団をつくる。</p>
<p>6 【保幼小中連携】</p> <p>子どもたちの健全育成に向けた学びの連続性を構築する。</p>	<p>○ 小中における、健康と体力を向上を図る学びの連続性を構築する。</p> <p>○ 保幼小における、自己肯定感を構築に向けた活動・学びの連続性を構築する。</p>	<p>○ 育てたい子ども像と実施すべき取組を、保幼小中教員で共有し実践する。</p>

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		自己評価				学校関係者による評価			
			評語	取組に関する指標(可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		成果指標		考察(コメント)	改善策	評語	主な意見
							中間	年間	中間	年間				
1 力(確かな学力)	全学級全教科で、主体的・対話的で深い学びを実現と探求学習を実施する。	校内研究を進め、算数、理科、生活、図工の研究授業を行う。1月に保護者に発表する。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	B	B	B	B	年間6回の研究授業と協議、講師からの指導・助言を実現した。保護者への自主的な発表会も実施できた。	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」に向け、教員の理解、イメージの共有化を図る。	A	成果指標はAでもよいと思いますが、より向上を志向すべきとの考えでBにされたのだと思います。管理職が交代されても、子どもたちの「なぜ」を大切にされること、教える側の向上心、学びの重要性が桃二の先生方に受け継がれていくことを期待しています。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
	デジタルドリルを活用した反復学習の仕方を確立する。	紙ドリルを購入せず、進める。9月までに成果と課題を検証する。10月以降改善し、1月に結論を出す。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	A	A	B	B	ナビマの活用は日本全国でも多い学校となるほど取り組んだ。その結果を整理するデータを集めた。	区の一括採用・無償提供が実現するので、児童の学習成果、のアンケート結果等のデータを踏まえ、学年ごとの活用法を決める。	A	ICT化の中で、公設民営と民設民営の学童施設におけるWi-Fi環境に差があることを知り、今後多方面に働きかけたいと思います。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
2 徳(豊かな人間性)	新しいことを学ぶことが楽しい、多くの人から学ぶことが楽しいと感じる心を育む。	外部教育力を活用した特別授業を年間50回以上行う。感想手紙を毎回書く。全折衝を教員が行う。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	A	A	B	A	特色ある教育活動推進教員を任命し、外部教育力活用を十分推進できた。感想手紙は完全に定着した。	児童の「学びに向かう力」の分析、感想手紙の質の向上を図る。	A	地域に開かれた学校については実感していましたが、外部講師を50回以上招聘しているという点については驚きました。全折衝を教員が行う負担は目的等の共有ができるならば、今後のコミュニティスクール化のなめ軽減されることを期待しています。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
	人とのコミュニケーションにおいて、挨拶と返事を大切に、自分からしようとする心を育む。	毎朝、挨拶と返事を指導する。朝会で視覚的資料を示す。校長室前通過の際の挨拶を教員に指導させる。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	A	A	A	A	朝の挨拶の、立ち止まって最敬礼は95%以上の児童が行っている。TPOに応じた挨拶・会釈の使い分けも浸透した。	持続・維持することで、児童が教職員・大人を見る目の把握につなげ、学校全体の落ち着きにつなげる。	A	ご指導により、桃二の子どもたちの挨拶率が高まり、丁寧になったと感じています。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
3 力(健康・体力)	子どもたちが夢中で取り組む授業、体育的行事、体育的活動を行って、子どもたちの達成感を積み重ねる。	運動会表現、短距離走、リレー、応援、全校踊りの質を上げる。体育授業のための研修を年4回行う。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	B	B	B	B	運動会表現はすばらしく充実したものとなった。新時代の運動会のプログラムを定着させた。授業の質の向上が必要である。	来年度、体育の授業改善、研究に取り組むべきであると考えている。	A	モモニーランドは大変すばしかった。引き続き行ってほしい。特別活動については、子どもたちも特に楽しみにしていると思い、主体性をもって取り組むことによって達成感、成功感、自己肯定感がより一層実感できるようなご指導を期待しています。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
	特別活動を、子どもたちが主体的に取り組み、やり遂げた経験を積み重ねて、達成感を抱けるようにする。	12月の展覧会の際に、特別活動の取組を発表する場を設け、子どもたちの視点で学校を作る。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	B	A	B	A	モモニーランドとして、特別活動の発表、展覧会を児童の主体的取組により充実させ、保護者・地域から大きな称賛を得た。	展覧会の年度のモモニーランドは定着できると考える。	A	これからの人生を有意義に過ごすための体力づくりも期待しています。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
4 安心・安全	いじめ、不登校による重大事態を引き起こさない。問題行動から二次障害を起こさない。	いじめ発覚に対し、その日のうちに会議を開き、24時間以内に聞き取る。理由を問うを徹底する。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	A	A	A	A	いじめ発覚に対し、その日のうちに会議を開き、聞き取り、必ず行動の理由を問うことを徹底できた。保護者から感謝を得た。	生活指導部を中心とした、この取組を継続・持続する。	A	中野区子ども権利に関する条例の趣旨が子どもたちに周知されるよう留意してください。権利と義務の関係も、可能であれば指導してください。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
	児童理解と特別支援教育の視点を全教職員が踏まえた指導・支援を行う学校とする。	UDの授業作りと人的環境UDによる児童理解を徹底する。毎月の校内委員会で子どもの問題を検討する。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	B	B	B	B	UDの授業作り、人的環境UDの児童理解が今一步の場合に、学級や授業で児童の問題行動が起きる。	特別支援教育の視点、UDの視点を取り入れた授業のための研修を行う。授業のUDを教員間で共有する。	A	UDについて、区も立案しているようですが、具体的な施策へ至っていないことが多く、難しい中奮闘されていると思います。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
4 働き方	教職員が教育に携わるやりがい・生きがいを持ち、互いのライフを尊重し助け合う教職員集団をつくる。	一堂に会する会議削減。時程と時数管理による、事務時間増大。交代で年休をとる積極的補教を励行する。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	B	B	B	B	会議削減、適正時数の管理は行えた。教員はやりがい・生きがいをもって職務にはげんでいる。交代休暇も促した。	来年度は、B時程の始業と中休み時程を変更し、B時程を多用することで、働き方改革と時数確保の両立を実現する。	A	昔は、疲れた様子の先生方をよく見かけました。本当は、教員の数が増えれば楽なのでしょうが、現状の中で最大限リフレッシュされて子どもたちと向き合ってください。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								
5 保幼小中連携	育てたい子ども像と実施すべき取組を、保幼小中教員で共有し実践する。	小中では、健康・体力について目標を共有する。保幼小では、自己肯定感を高める取り組みを共有する。	A	十分にできた。	A	目標達成率...90%以上	B	B	B	B	中学校区校長連携が密になり、協議会で教員もよく連携できた。保幼小への見学も積極的に行い、協議会も充実した。	中学校区のコミュニティスクールの充実を図る。そのための組織づくりを行う。	B	保育園児の小学校体験を学校が教育活動として取り入れ発展させていたをうれしく思います。今後中学校から、桃二から来た子はいいね、と常に評価を受ける学校を目指していただくことを望みます。
			B	ほぼ十分にできた。	B	目標達成率...80%以上								
			C	やや不十分であった。	C	目標達成率...70%以上								
			D	不十分であった。	D	目標達成率...70%未満								

\* 学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある